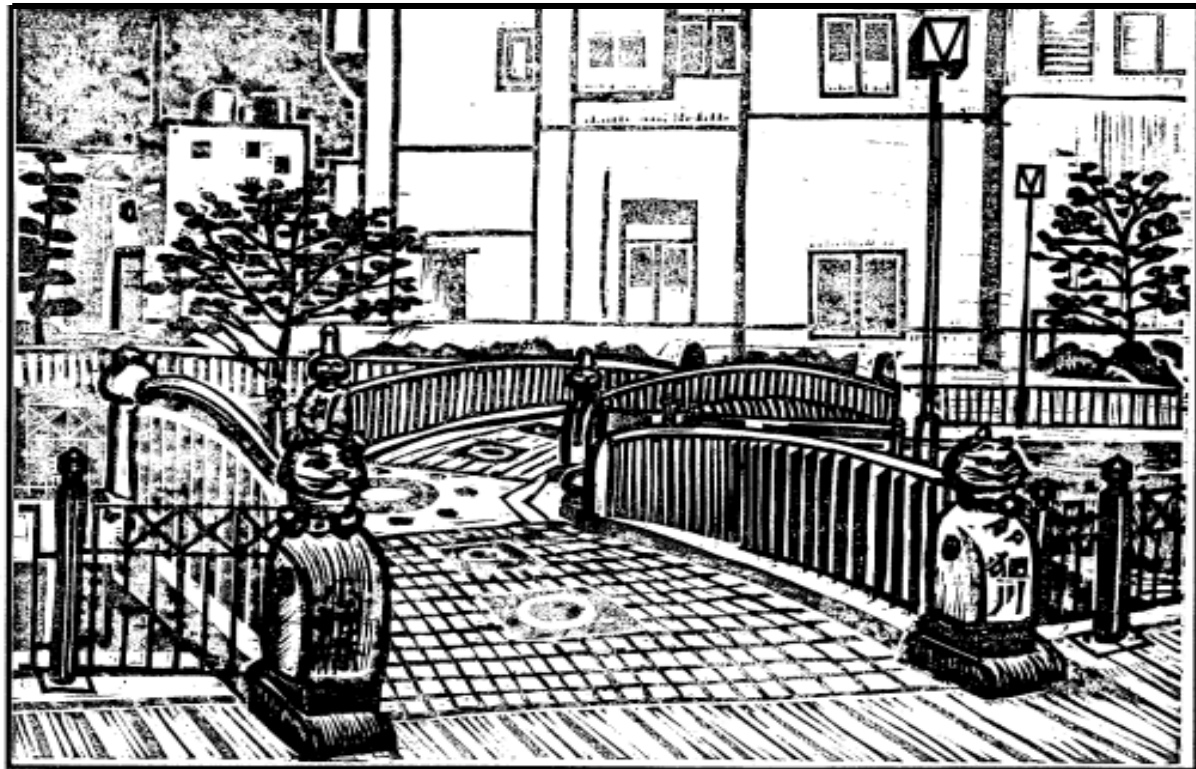


いたちかわらばん

通刊 99 号 颯川・独川 / 川原番・瓦版 26 夏号



版画 宗森 英夫

《大独橋・小独橋》大独橋は親独を、小独橋は子独をイメージしたもの。中州部分には独の家族の食卓が描かれている。

いたち川散策の基点として、栄区役所の裏門を利用される方も多いと思います。裏門を出ると、少し低い位置にいたち川散策道があり、右へ進んで上流へ向かって、左へ進んで下流へ向かって、どちらも心地よいブロムナードが続きます。

目の前には大独橋と小独橋があり、それぞれに可愛らしい橋柱が立っています。両橋の間には、家族団らんの食卓を表した彫刻が設置されており、階段を降りて水辺に近づく、魚や鳥と触れ合える空間が広がります。休日には、親子が水遊びを楽しむ姿も見られます。この水辺の階段を舞台として、過去には音楽会や灯笼祭りが開催されたこともあります。

この広場を起点に、本流沿いには散策道が整備されており、下流側にはいたち川ブロムナード、上流側には川辺の道が続きます。「扇橋の水辺」「稻荷森の水辺」「坊中の水辺」「石原の水辺」という四つの水辺スポットが連なり、多くの人に親しまれています。

右支川沿いに瀬上池へ向かう散策路では、川辺の植物や小魚を観察でき、6月～7月にはホタルが乱舞する幻想的な光景を楽しめます。瀬上からは瀬上沢市民の森や横浜自然観察の森へ歩を進めることもできます。

左支川には洗井沢川せせらぎ緑道が整備されており、途中にはアラハバキ祠や道標が見られます。荒井沢では多様な動植物に出会い、さらに足を延ばせば鎌倉湖（散在ヶ池）へと至ります。

また、川の中からは栄区のマスコット「タッチーくん」の石像が、散策する人々を見守っています。天神橋のバス停にも近く、城山橋へも歩いて行ける距離なので、こちらも便利に利用できます。

（草本 和子）

読者からのたより

いたち川瓦版 98 号に天神橋の話題がありましたので、天神橋付近を散策してみました。バス停の傍に石で出来た橋の親柱 4 脚が置かれており、とても重厚で趣ある美しさで、いつもいいなあ、と見とれています。

その親柱には、橋の名前、川の名、竣工年として昭和五年？の刻みがあり親柱あそこに置かれるまでのいきさつなど、教えて頂けないでしょうか？ よろしくお願ひします。

（栄区在住 中村 直子）



回 答

天神橋の歴史をたどると、この地域の移り変わりがよく見えてきます。

栄区桂町天神社（桂の天神様）周辺は、昔から集落の中心として人々が行き交う場所でした。現在天神様は天神橋上流左岸に小さな祠が祭られています。

初代の天神橋は、大正の終わりから昭和の初めごろにはすでに存在していたと考えられていますが、現在の上耕地橋の位置と考えられます。（公図では祠の位置から道の表示があることから）

二代目の天神橋は、現在もバス停の道路沿いに親柱 4 基が残されており、そこには昭和 5 年（1930）3 月完成と記されています。

その後、昭和 13 年（1938）には第一海軍燃料廠が設置され、翌昭和 14 年（1939）にこの地域は鎌倉郡から横浜市へ編入されました。この頃から、現在の「県道原宿六浦線」が軍用道路として整備されていきます。

天神橋も、その計画に合わせて、昭和 5 年に軍用車両にも耐えられるしっかりした橋へと架け替えられたと考えられます。

三代目の天神橋は、交通量の増加に対応するため、昭和 63 年（1988）に全面的に架け替えが行われました。このときの親柱は、区役所の花壇に大切に保存されましたが、現在撤去されたようです。

四代目となる現在の天神橋は、いたち川の改修で川幅が広がったことや交通量の増加を受け、歩道の安全性向上と車道幅の確保を目的に、平成 18 年（2006）に完成しました。

（水・人・子）

☆洗井沢川源流の散策

いたち川の左支川としては湧水多く、昔から住民の生活の糧として守られてきたところです。

時代的には谷間は「地獄谷」と呼ばれ人を逃避けて、山の頂上には城「皆城山」を設けて砦とした様です。現在は「極楽広場」「皆城山展」として親しまれております。

開催日 令和 8 年 10 月 6 日（火）10：00 集合

集合場所 天神橋バス停

天神橋バス停（神奈中上之行 船 11）→桂台中央バス停（徒歩）→極楽広場（トイレ休憩）→洗井沢川源流部散策→荒井沢溜池巡り（上池、中池、下池）→皆城山山頂（昼食休憩）→荒井沢市民の森散策→桂山公園バス停（解散）

参加費：100円（保険料等）

持ち物：飲み物、昼食、雨具、

参加人数：20名（先着順）

参加要領：参加希望者は、葉書、メール、FAXで氏名・ふりがな・電話番号を明記の上、令和8年9月25日（金）までに下記に応募して下さい。（当日消印有効）

応募先：〒247-0005 栄区桂町303-19
（電話）894-8161（FAX）894-9127
（アドレス）sa-kikaku@city.yokohama.jp
栄区役所区政推進課企画調整係

発行年月
2026 年 6 月

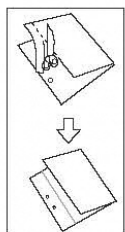
通刊 99 号

発行：独川 OTASUKE 隊（いたちがわおたすけたい）

OTASUKE 隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8161 FAX 045-894-9127

編集協力：栄土木事務所下水道・公園係 TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421

この部分を
切り取って
ファイルにす
ると便利です



栄区制 40 周年を迎えて、近代国家になった明治時代の相模の国鎌倉郡から横浜市戸塚区、栄区について調べて紹介いたします。

明治時代の記録としての文献に「皇国地誌」があり、現在で言う国土調査で、この内容を順次紹介していきます。

明治初期、ときの明治政府が近代統一国家の自覚のもとに、国内の町村の実態を把握するために行った一連の調査結果の一つであり、当時の村の沿革、地味、人口、社寺、産業等を集計したもので、郷土のルーツを探るためには貴重なものです。

「相模国鎌倉郡村誌」は四巻には現在の鎌倉市、藤沢市、横浜市戸塚区、（栄区、泉区、瀬谷区、）保土ヶ谷区、旭区など 89 か村が記載されています。

鍛冶ヶ谷村、公田村、桂村、上野村、中野村、小菅ヶ谷村
笠間村、金井村、田谷村、長尾台村、長沼村、飯島村

*明治22年(1889)町村制施行→大合併実施、横浜市が制定

統合され 3 村となる

鎌倉郡本郷村、鎌倉郡豊田村、長尾村（大正 4 年に併合 2 村となる）

その面を歩
る丘M
床室の
イづく
と。「
いたが
が理解
見学は
なが
さて
横穴墓
の豪王
した。
学は取
です。
いた

後、北西方向へ下り、鎌倉街道を横断して斜
上し登ると、特別養護老人ホーム「陽のあた
りSONO」に到着します。ここは個室・多
介護施設であると同時に、地域コミュニテ
ィの場として地域に開放されているとのこ
ろ。特養ホームについて分かりやすく説明して
いただき、参加者からは「疑問に思っていたこと
ができて参考になった」との声がありました。
事前予約制で、迷惑にならないよう配慮し
て終了しました。

最後に予定していた鍛冶ヶ谷市民の森の
（古墳時代）25基の見学ですが、二週間前
雨と強風の影響で立ち入り禁止となっていま
す。栄土木事務所により修復工事中でした。見
学がやめせざる得ない状況になり本当に残念
です。またの機会に是非見学されますようお願い
します。

（うめおきな）

(うめおきな)

戸塚区、旭区、保土ヶ谷区（一部）を含め鎌倉郡から横浜市に編入、鎌倉郡本郷村、豊田村→横浜市戸塚区に編入
編入によって村が無くなり、横浜市戸塚区鍛冶ヶ谷町、公田町、桂町、上野町、中野町、小菅ヶ谷町、笠間町、金井町、田谷町、長尾台町、長沼町、飯島町、庄戸町、野七里町、
が形成される。

明治 22 年頃

戸塚

東海道

柏尾川

長尾村

村役場

豊田村

鎌倉街道

村役場

いたち川

本郷村

大船

*昭和 60 年 (1985) に戸塚区より栄

記載の記録は、皇国地誌、栄区制 10 周年記念誌によります。

今回は栄区のルーツについて記載しましたが次回以降には「皇国地誌」に記載してある村の沿革、地味、人口、社寺、産業等を個別に紹介していきます。いたち川に関しては、橋梁をはじめとして周辺の山林についても説明したいと思っております。

歴史等に興味のある方はご一報いただけることを期待しております。

(水・人・子)

いたち川 OTASUKE 隊は発足から 30 年以上が経ち、現在は隊員の高齢化が進み、「いたち川瓦版」の継続が難しい状況となっています。

そこで、栄区の環境や歴史に関心をお持ちの皆さまのご参加をお待ちしております。

参加をご希望の方は、ぜひご一報ください。
定例会は月1回、第4金曜日に開催しています。
(会費・報酬はありません)

連絡先：栄区区政推進課 電話 894-8161

本郷ふじやま公園・横穴古墳群の散策と
特養ホーム見学　くウオーキング報告　く

3月24日(火)10時、天神橋バス停に集合。参加者12名、おたすけ隊3名、区役所1名の計16名で出発しました。

本郷バス停で下車し、本郷ふじやま公園へ向かいました。ふもとの弓道場を左手に見ながら竹林の坂道を登ります。この小高い丘は「中野富士」と呼ばれ、別名「水口山（みなくちやま）」ともいわれて、かつては清らかな水が湧く山として知られていました。ほどなく頂上に到着すると、周囲の山桜が満開。富士山をかたどった石碑があり、江戸時代には富士講の山として信仰されていたとのこと。遠く西方には富士山の姿がくっきりと望めました。園内には、小岩井家の家屋を移築した長屋門や母屋があり、古民家として見学できます。当家に伝わる歴史資料も閲覧でき、本郷ふじやま公園運営委員会の方に案内と説明をしていただきます。